

校長室だより

うんとこしょ
どっこいしょ

第70号 令和5年10月18日

渋谷区立原宿外苑中学校長 駒崎 彰一

(株) やまと コラボ企画 原宿外苑中学校3年生による

「ゆかた」デザインコンテスト



やまと
YAMATO
KINOKUO DESIGN NAZUKI

本年度の新たなプロジェクトになります！

9月に着付け授業を展開していただいた(株) やまと さんとのコラボレーション
企画で3年生が「ゆかた」のデザインに挑戦しました。

コンテストですので・・・

最終的に「最優秀デザイン賞」を決定したいと考えています。

☆ まずは、校内での1次審査で30作品を選定。

(校長・副校長・美術科教員による審査・・・素晴らしい作品がいっぱいありました)

☆ この後、2次審査として本校Webサイトでの投票

(2次審査での上位作品を(株) やまと に送付します)

☆ 最終審査は、(株) やまと さんが中心に進めていきます！

今回は2次審査になります

「1次審査」を通過した30点を

次ページ以降に

原画のまま、説明文を添えて掲載します

(今回デザイナーの氏名は掲載しておりません。)

以下のQRコードもしくはURLのフォームから

この「ゆかた」着てみたい！！ 「素敵！！！」

と感じたデザインに投票(複数可)をお願いします。

投票は10月27日(金)まで

1人1回の投票をお願いします！ 誰でも投票できます！

投票の際に氏名の入力をお願いします。個人情報投票者の確認のみに使用します。

(株) やまと コラボ企画 原宿外苑
ゆかたデザインコンテスト



<https://forms.office.com/r/Vsf836b2FD>

① 題名「宇宙の空にいるくも」

着物の見所は表の宇宙を表していて、そこに星のように描いたくもが見所です。工夫した所は宇宙をイメージして描いた色合いです。いろんな色をつかさざざまな宇宙を表しています。がんばった所は裏のかめの甲をイメージして描いたこうらです。そこの周りにかめをイメージして緑にしました。もようもがんばりました。



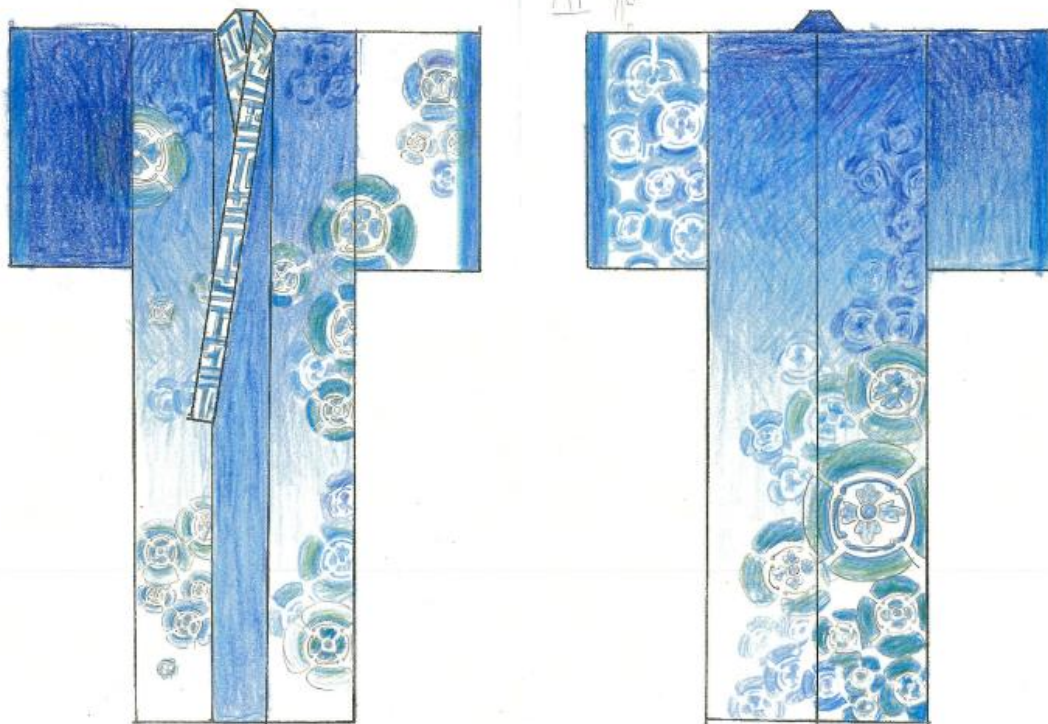
② 題名「ニッコウキスゲ」

かたの部分と、そでの部分にある、麻の葉模様のグラデーションに気がつけました。また裏の面を半分に分けている線を越えている花びらと、越えていない花びらがあって目の錯覚を利用しました。それに加えて裏の面に2つの花の前を防ぐように麻の葉を描いて奥行きがあるようにしました。



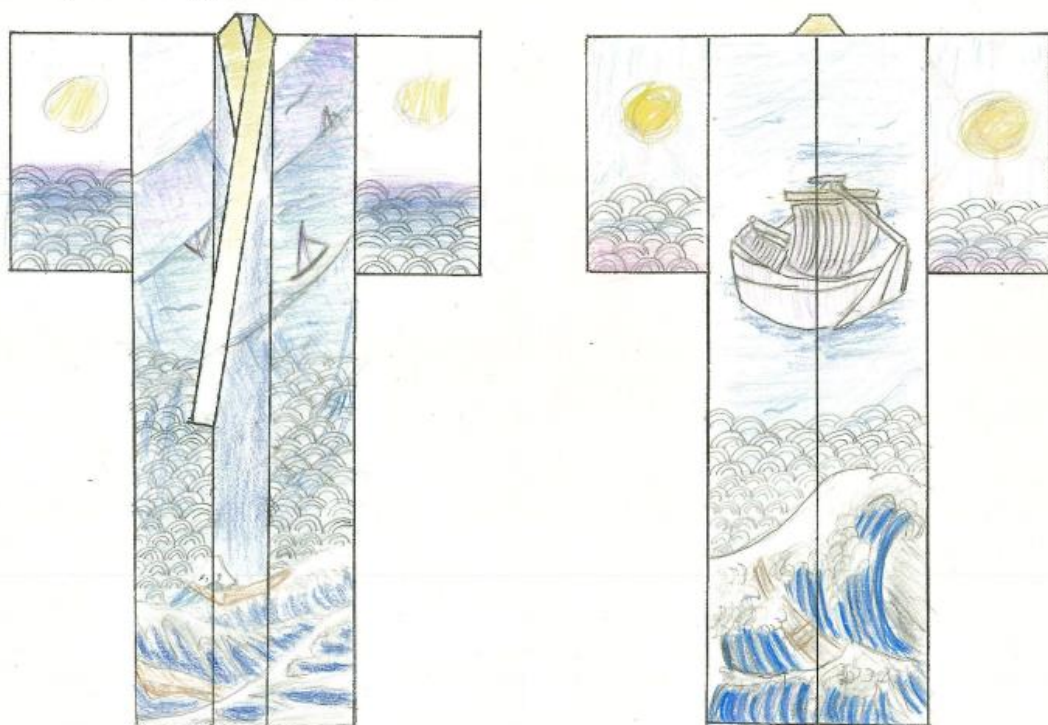
③ 題名「四方木瓜」

四方木瓜を全体的に散らばらせてという依頼だったので意識して書きました。さや型も依頼されていたので着物のえりに入れました。



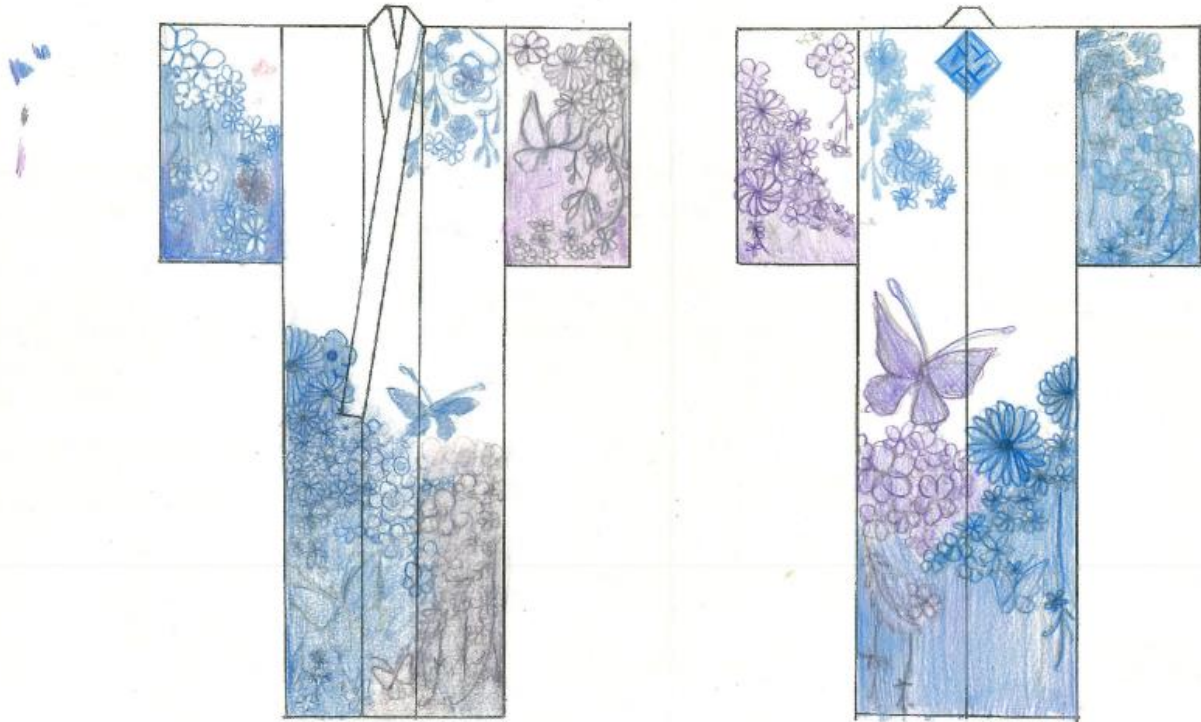
④ 題名「昼と夜の二面性」

僕はこの作品で「昼の力強い舟」と「夜のゆらゆらと揺られる舟」の二つを表現しました。昼は輪郭を強調し、はっきりとした印象をもたせました。逆に夜は、様々な色を重ね、雰囲気深みを出しました。ぜひ昼と夜の舟の印象の違いに着目してください。



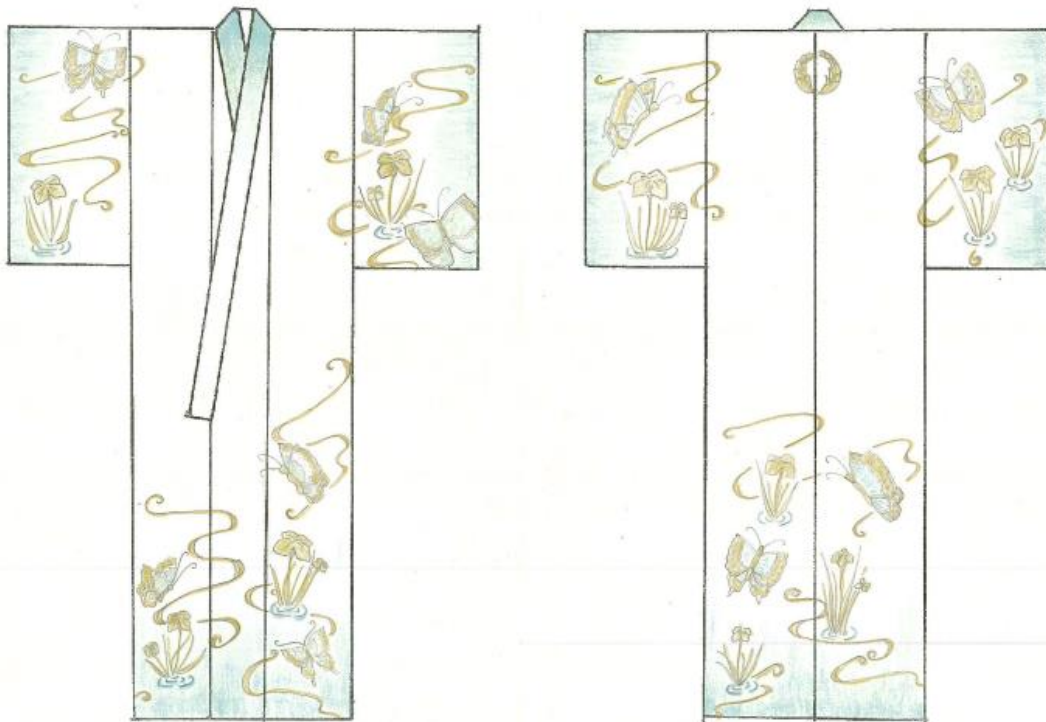
⑤ 題名「蝶のために」

受注者がバレリーナなので彼女が着た時に最大限美しさを引き出せるようにデザインしました。ポイントはすその方に色を集中させることでりんとした雰囲気を出そうとした所です。また、白ベースにすることで着る人ごとの良さが出るようにしました。さらに肩から垂れ下がる花を置くことで浮つかず、落ち着いた雰囲気に仕上げました。



⑥ 題名「蝶々」

着物の袖や裾をグラデーションにし、全体のバランスが良くみえるようにしました。また、燕子花の花が利休色なので、グラデーションは浅葱色にして燕子花や蝶が目立つようにしました。様々な角度からみた蝶が特徴です。



⑦ 題名「一番星」

この着物は、夕焼けの景色を表した着物です。右の衣の柄は波の様子を表していて、右と左で重ねたときに華やかになるようにしました。同じ色の線を統一して使い、ポイントにしました。赤系の色だけでなく、緑青を使い、星を魚を使って描いたことで、全体を落ち着いた着物にしました。



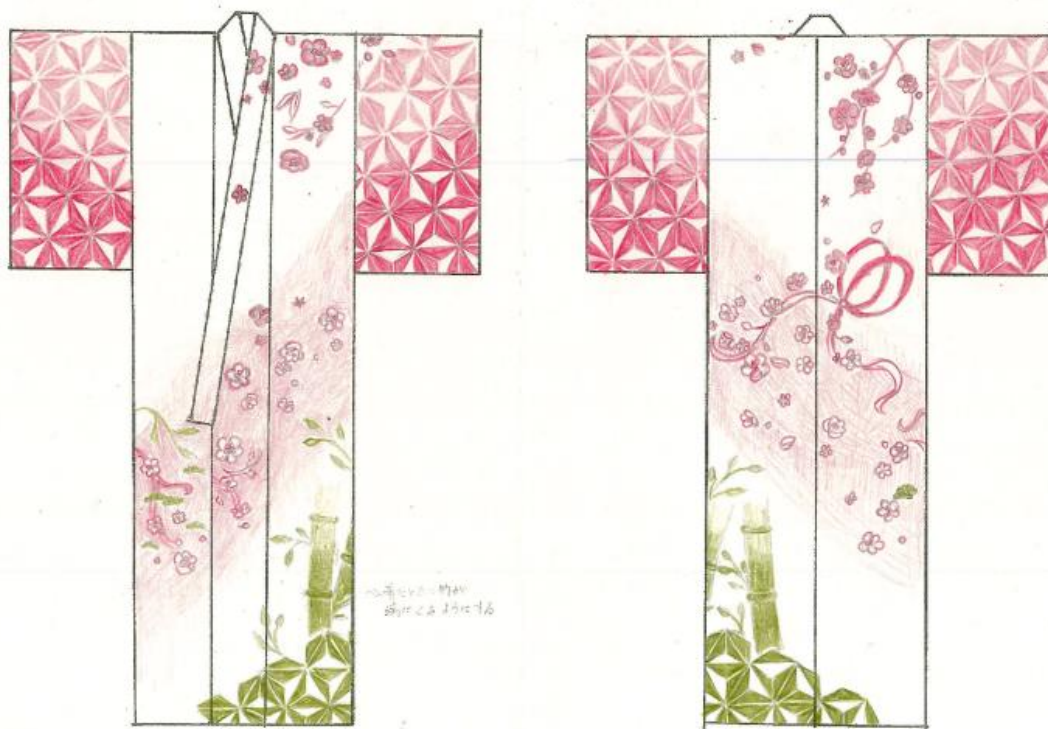
⑧ 題名「背中に背負う鷺」

この着物のみどころは、柄はとてもシンプルだけれど、背中には大きな鷺がいるということです。着物の色は、あまり派手すぎず、どの年齢でも似合うような色にしました。しかし白い枠をいれることで



⑨ 題名「季節の移ろい」

この着物は、柄に松竹梅を取り入れ。白地に茜色の梅を配置することで茜色がよく映えるようにしました。また、上から下にかけて早春の梅から夏の竹に移り変わる様子も表現し、季節の移り変わりを感じられるようにしました。麻の葉は袖とすそで色を変え、グラデーションにして季節とともに変わる色にもこだわっています。着るだけで自然の美しさを感じられるようにデザインしました。



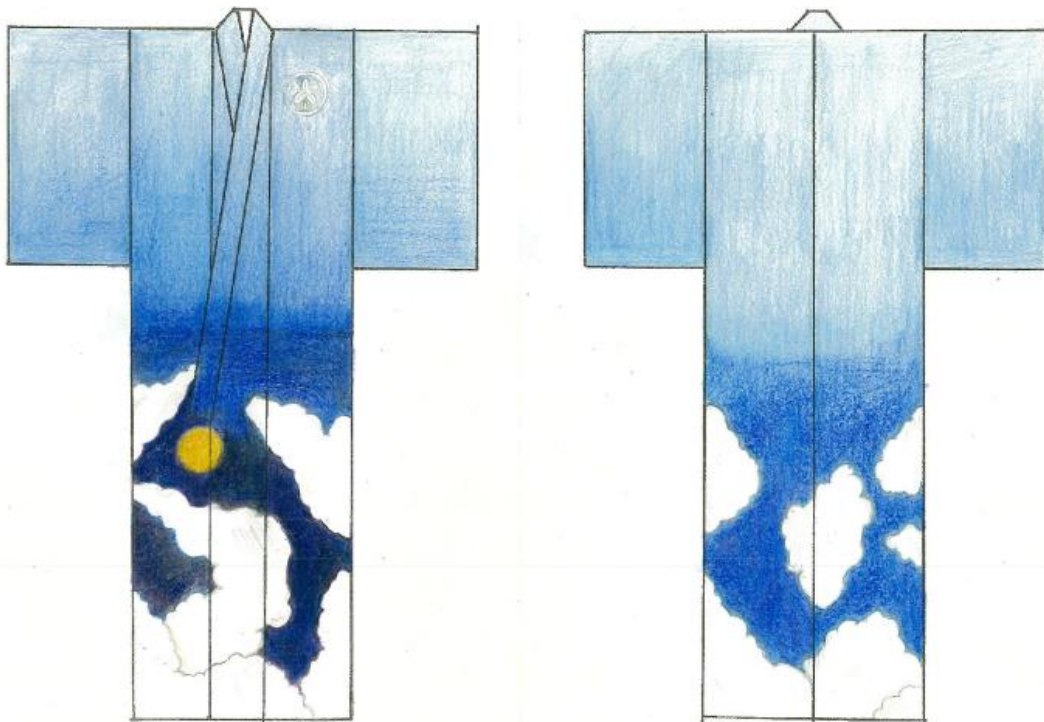
⑩ 題名「自然塊」

まず、着物の見所としては、振袖は太陽光の中に葉が入っているイメージで書きました。また七宝を表にたくさん書くことによって自然の塊を表現しました。



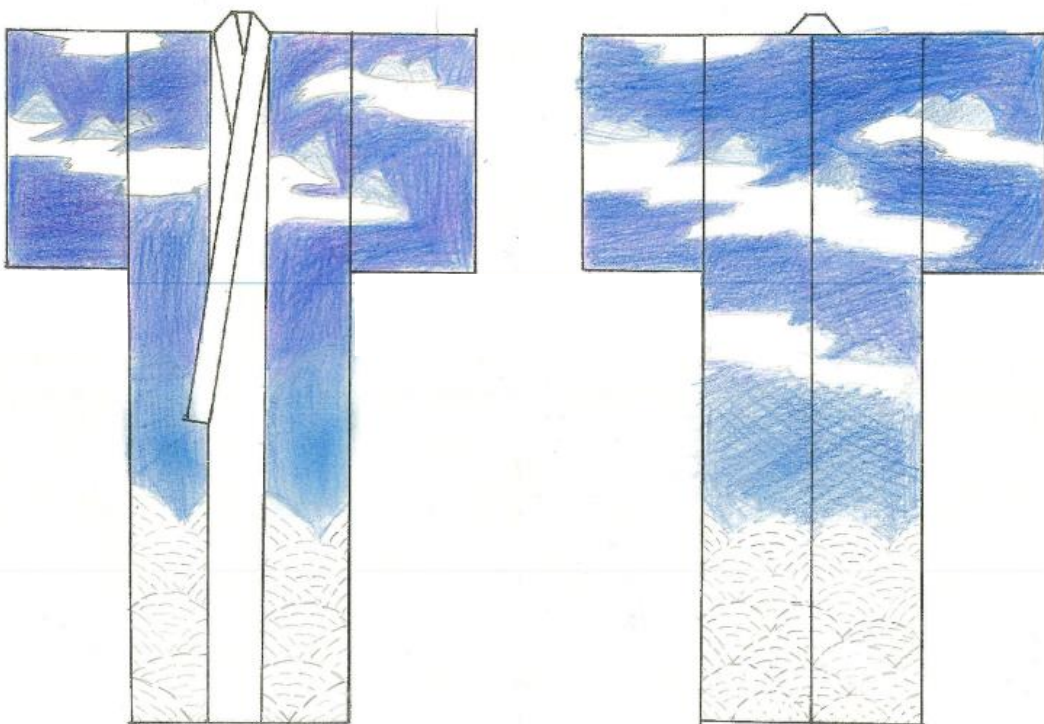
① 題名「月」

着物の上の方は薄い青っぽくして着物の下の方は濃い青っぽくグラデーションにした所を一番頑張りました。また、一つだけ明るい黄色を使い目立つようにした月が一番の特徴です。



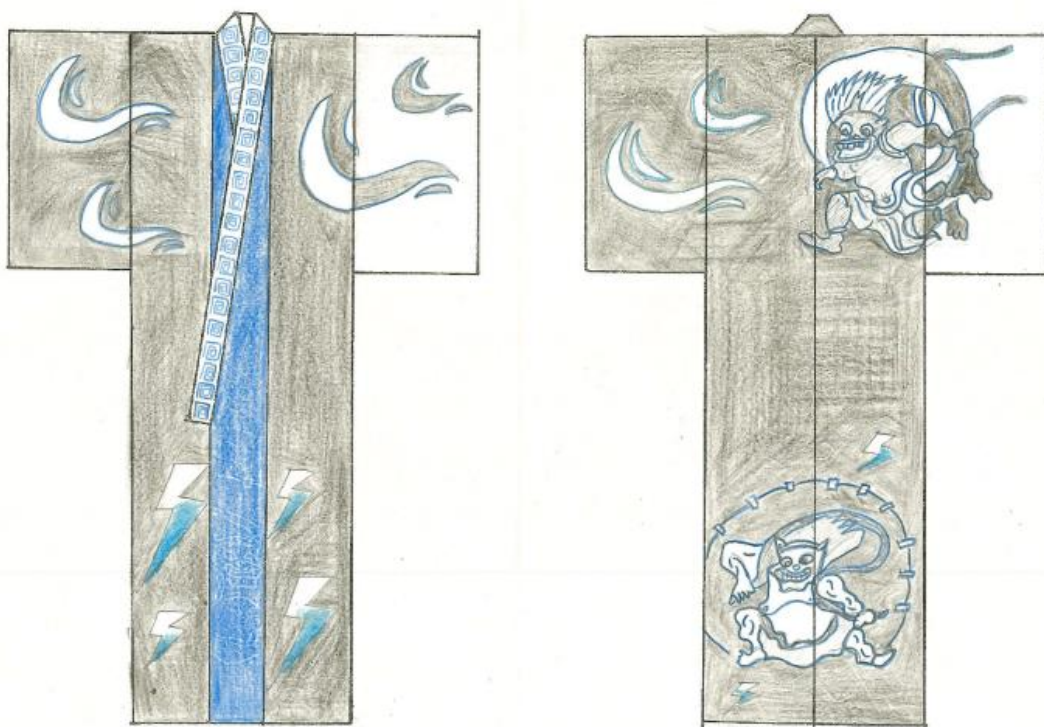
② 題名「山と霧」

私は力を入れたところは色を塗るときに、色をなん層もかさねて色を塗ったところです。他にも二つポイントがあり一つ目は霧の上に山を描いたところです。二つ目は、上の色と真ん中の色を少しグラデーションにしたことをポイントに頑張りました。



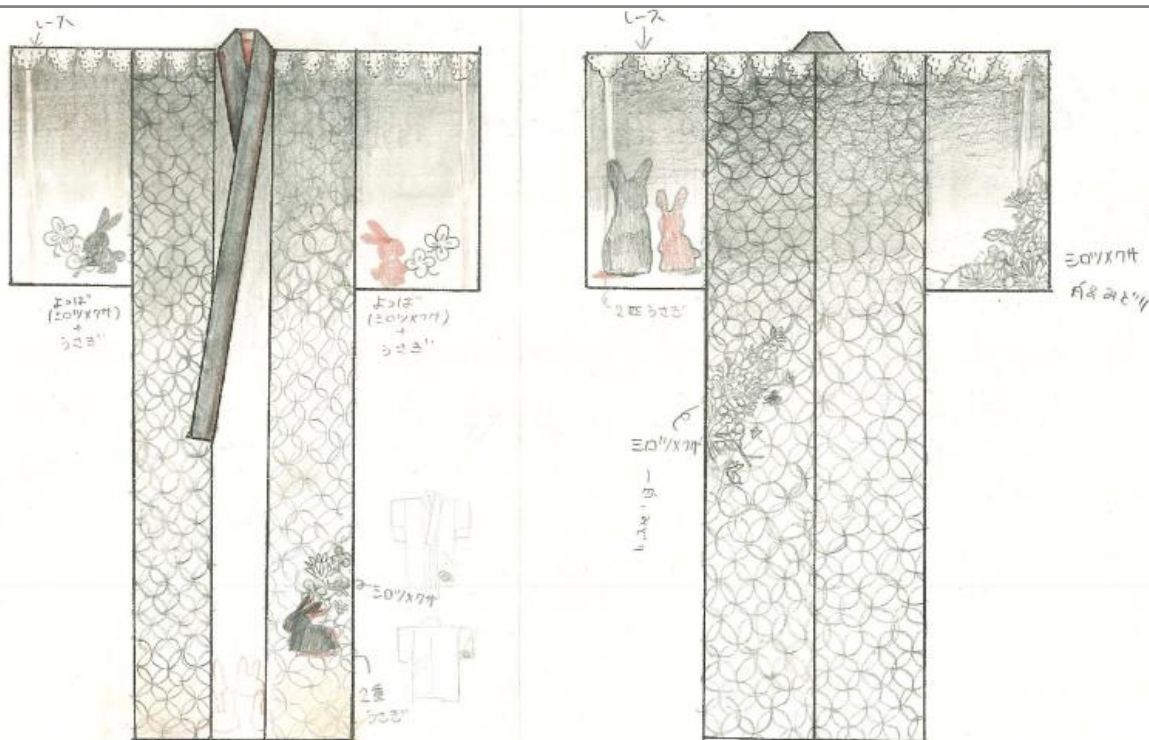
⑬ 題名「風神・雷神」

風神・雷神の風・雷をイメージしました。また袖の一部の色を反転し明暗をつけて、着物と黒だけでなく白をたくさん使うようにしました。それ以外にも青でりんかくを書きかわいらしさを出せるように工夫をしました。



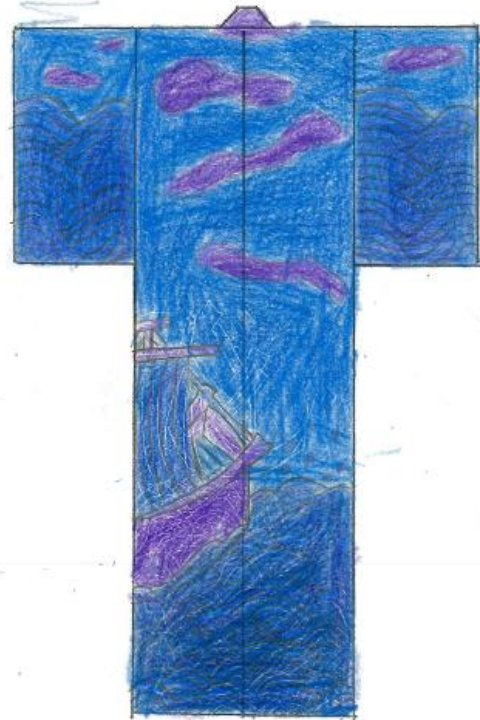
⑭ 題名「白うさぎ」

黒と白の七宝柄だけでは少しシンプル過ぎるので、ワンポイントで紅梅色のうさぎ、シロツメクサ、レースを取り入れて“かわいくてかっこいい”着物に仕上げました。



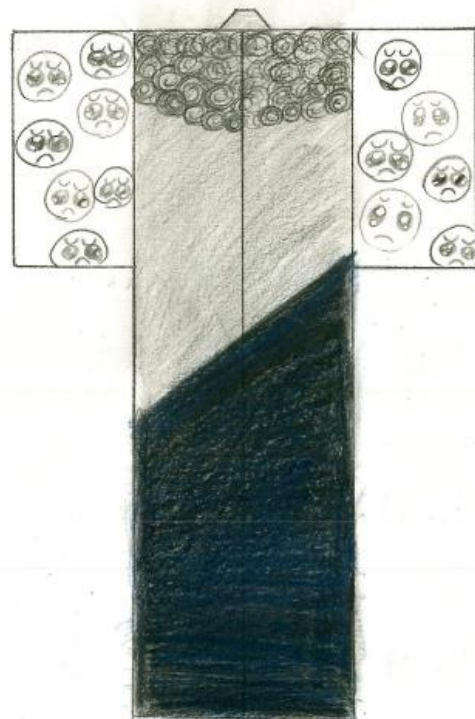
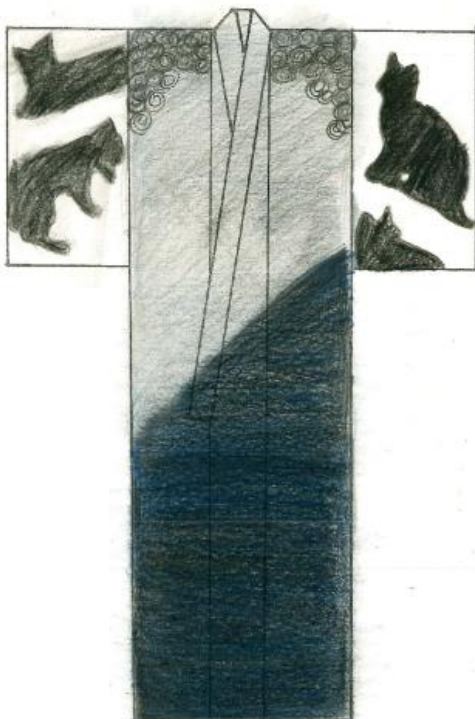
⑮ 題名「夜半の響き」

空よりも海の色を濃くすることで、着物に立体感が出るようにしました。青海波をゆがますことで荒波を表現し、その中を船がさまよっているような、不思議で引き込まれるようなデザインにしました。



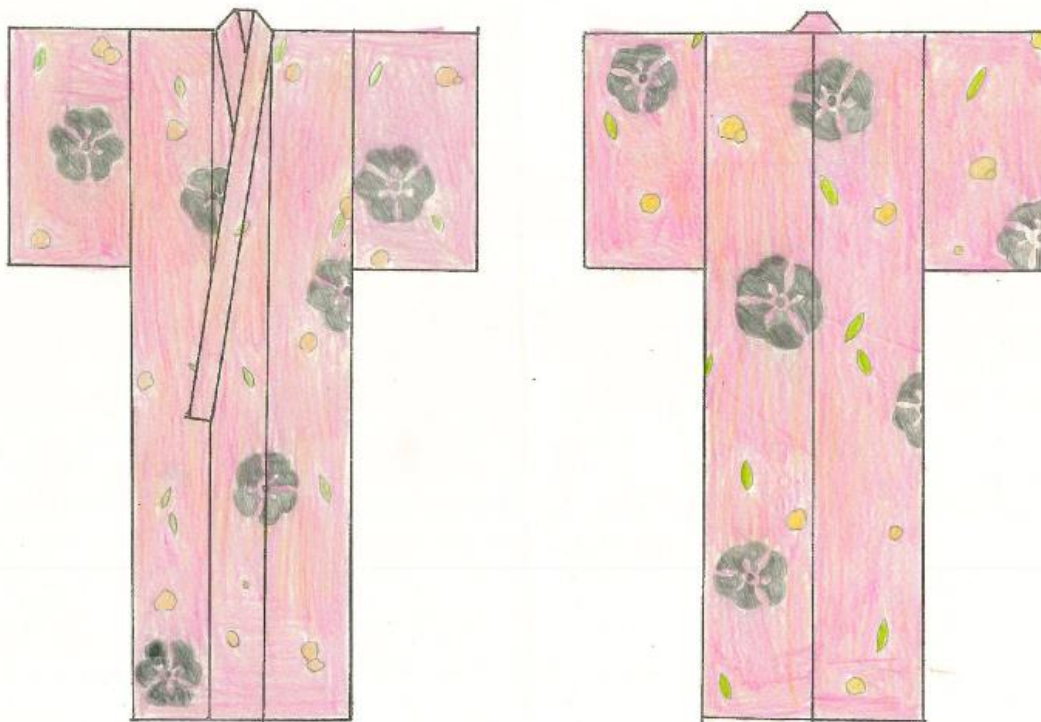
⑯ 題名「モダンアート」

全体のイメージとして、暗い雰囲気になりました。袖の表側には黒猫を、裏側にはびえんを描くという風に柄を入れる場所を統一させて、古風な感じと現代的な感じを組み合わせています。紺色を黒になじむように作りました。



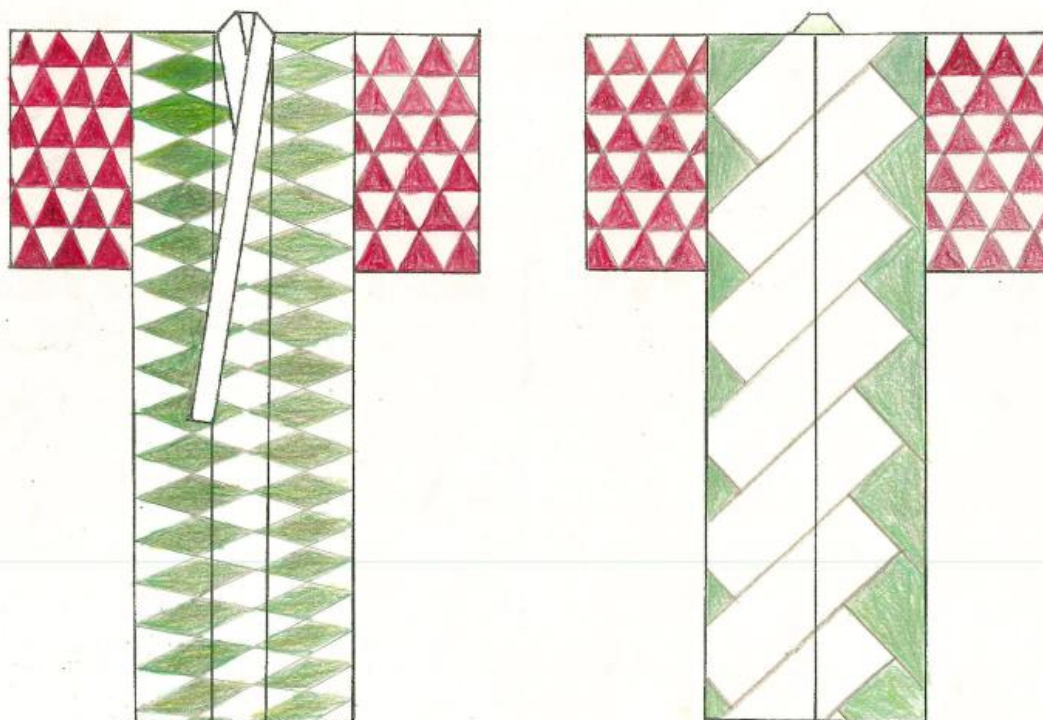
⑰ 題名「麗らかな春」

この着物のもっとも良いところは 桜色のきじに散らばっている 葉っぱや木の実、片喰です。桜色にすることで春の訪れが感じられます。また緑色や黄色を使うことで 色とりどりとても素敵だと思いました。



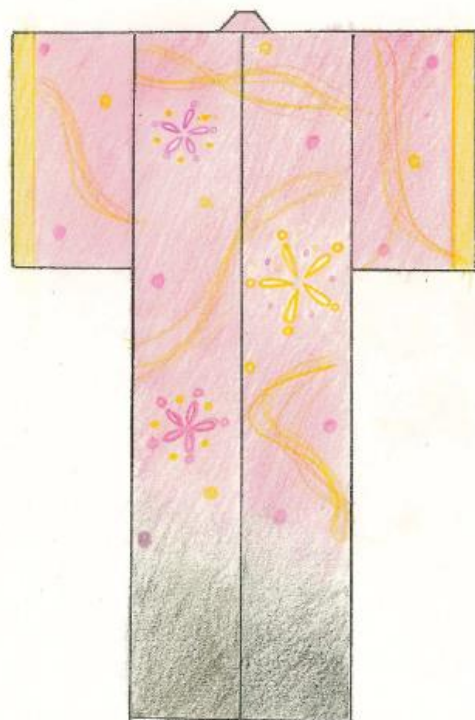
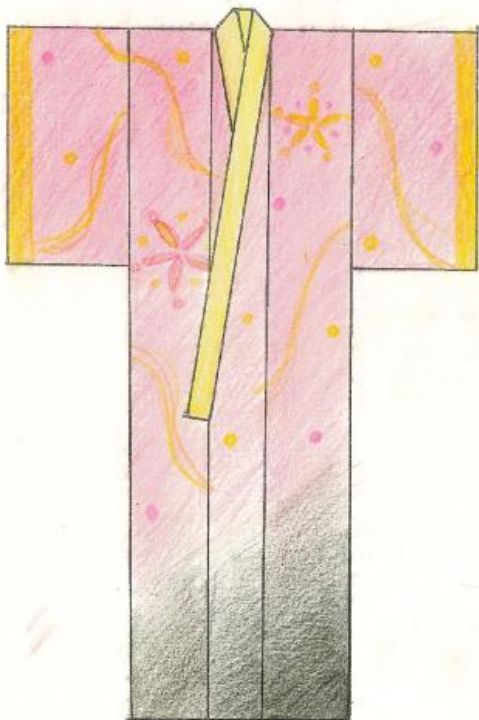
⑱ 題名「令和版織田信長」

色々な種類の規則的な形が着物の全体に書いてあり、和色とのコンビネーションが魅力的です。正三角形やひし形をすべて同じ大きさ、形に書くために平行線を何本も引くことを努力しました。書いているうちに 織田信長っぽさが出てきてこの名前にしました



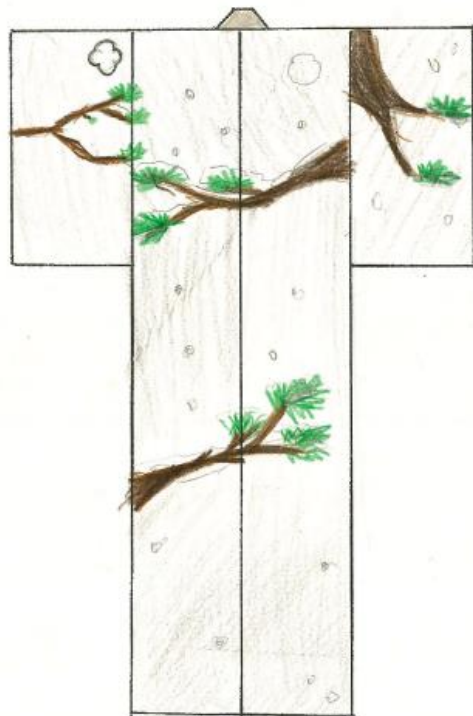
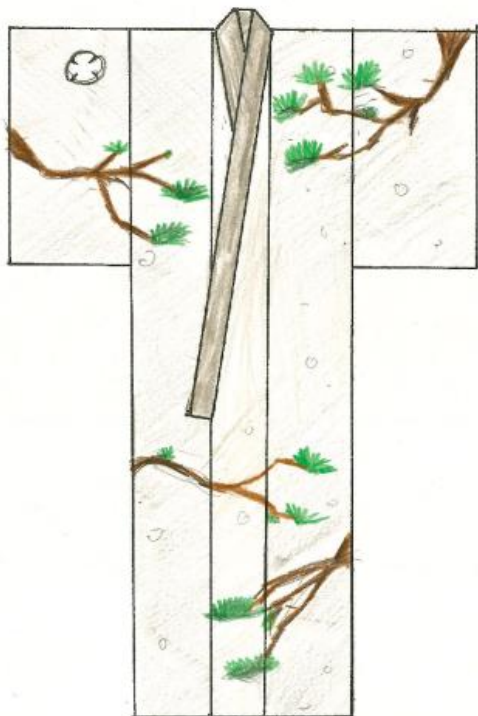
⑱ 題名「夕焼けに咲く花火」

この着物は、昼と夜のはざま、夕方を表す夕焼けの色の層と夜へ近づいていく暗闇を描くことによって昼と夜の二つの美しさを一緒に表しました。茜色と消炭色のグラデーションがとても難しく、少しずつ色を重ねながら描きました。



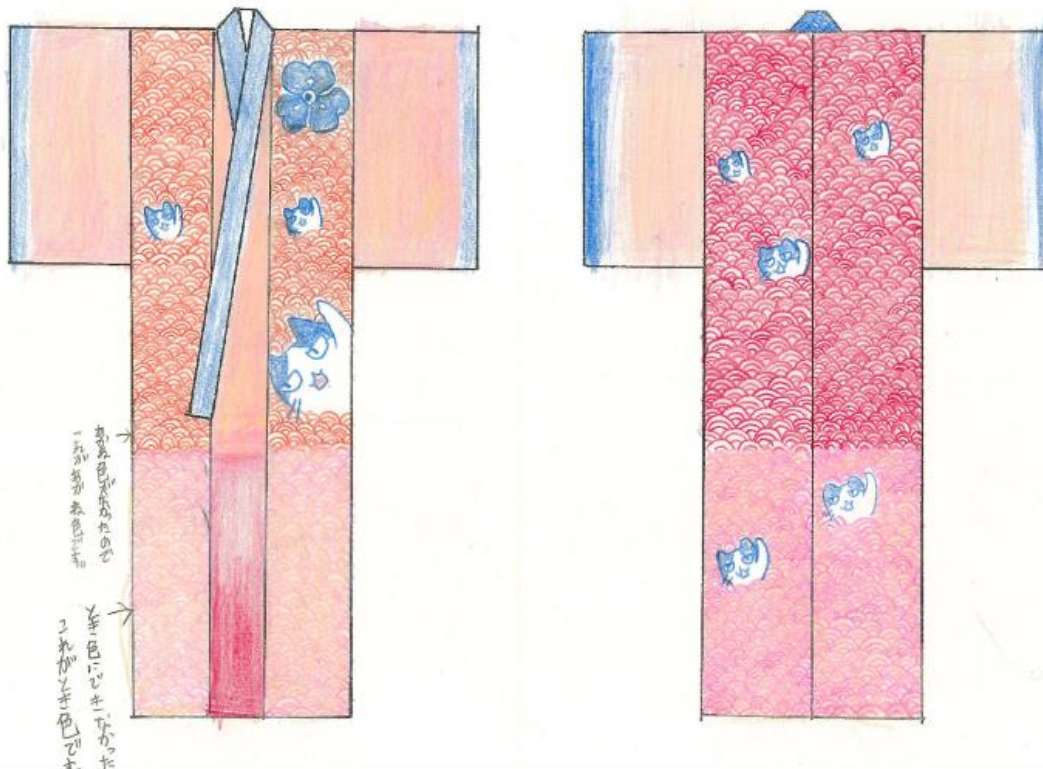
⑳ 題名「松と雪」

いかにシンプルでエモい風景にするか、色づかいなどをこだわりました。よく見ると松に雪が積もっているのを見てみてください。



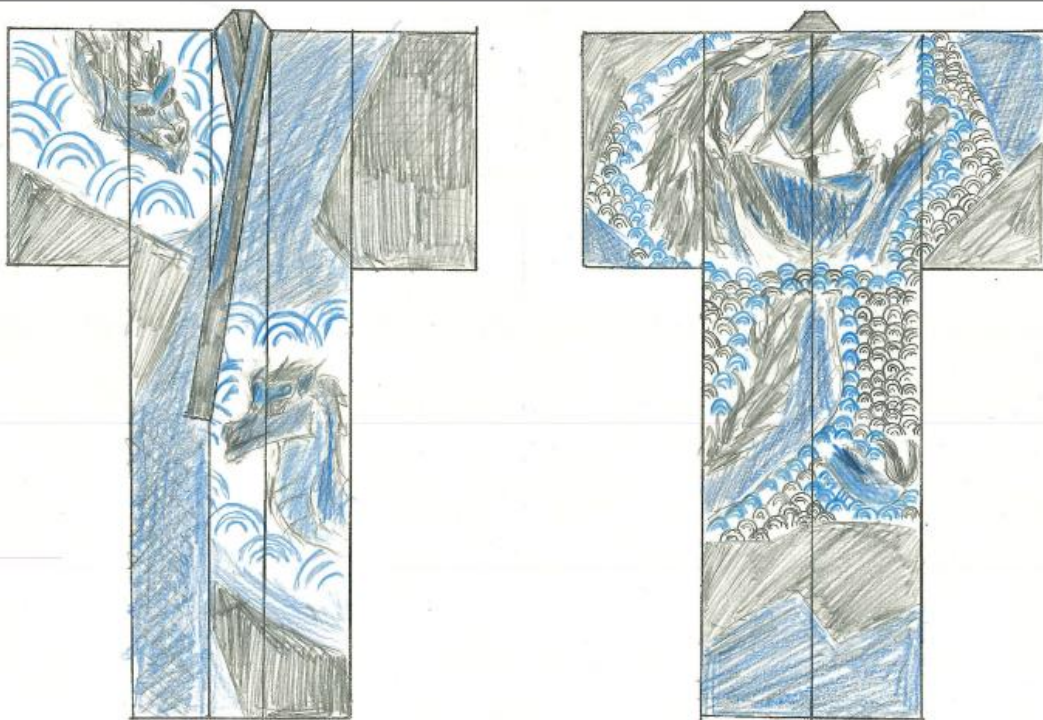
② 題名「cat in wave」

まず注目してほしいのはなんといっても波の部分です。茜色ととき色を使い波を描きました。さらにここに一番時間をかけました。次に注目してほしいところは青の片喰です。なかなかバランスがよくなくきたない片喰を何回も書いていきましたがようやく今のようなきれいな片喰ができました。



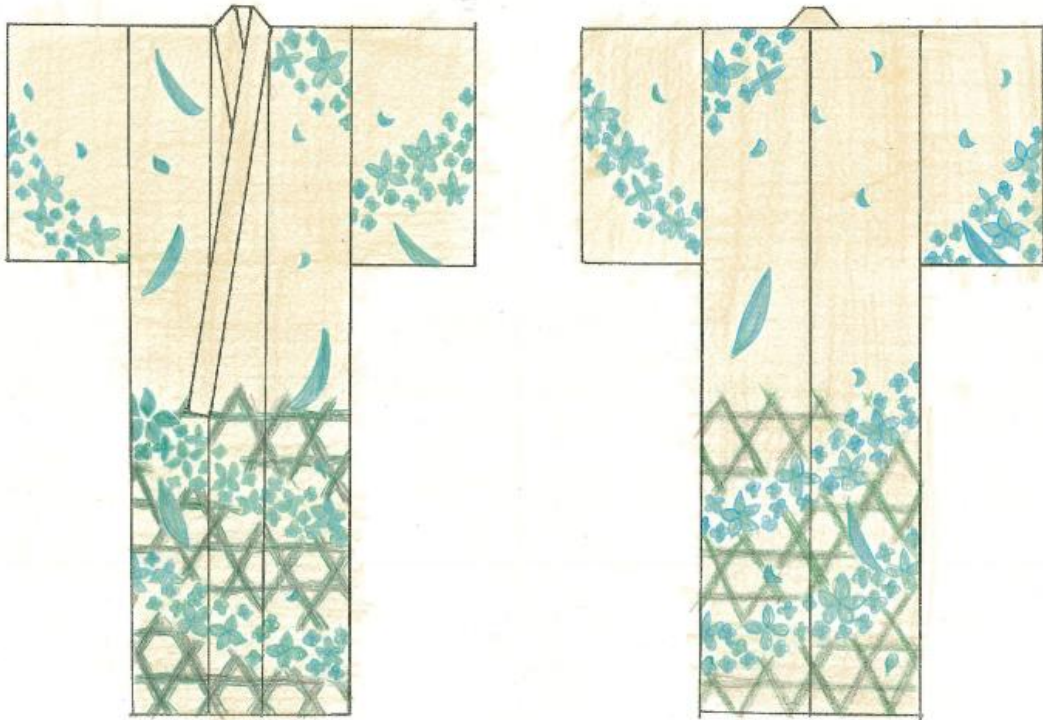
② 題名「波」

暗めの色が多いけれど全体が重くなりすぎないようにバランスを工夫しました。絵の立体感をつけて全体的に迫力が出るようにしました。



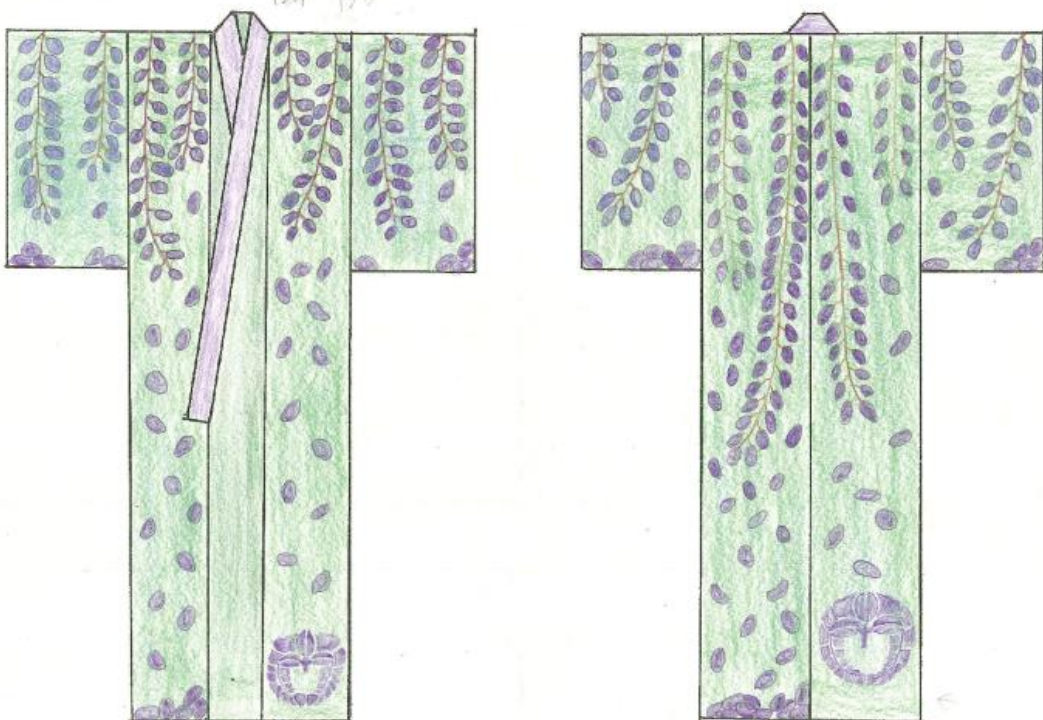
㉓ 題名「籠の中に咲く花」

受注者の希望で籠目を下の方に集めました。上の方がさびしくなってしまったため、花びらや葉っぱを散りばめ、それでも少し物足りないと感じたため、全体をうすいだい色でぬりました 花や葉っぱは風に吹かれているイメージで不規則に描くことを意識しました。



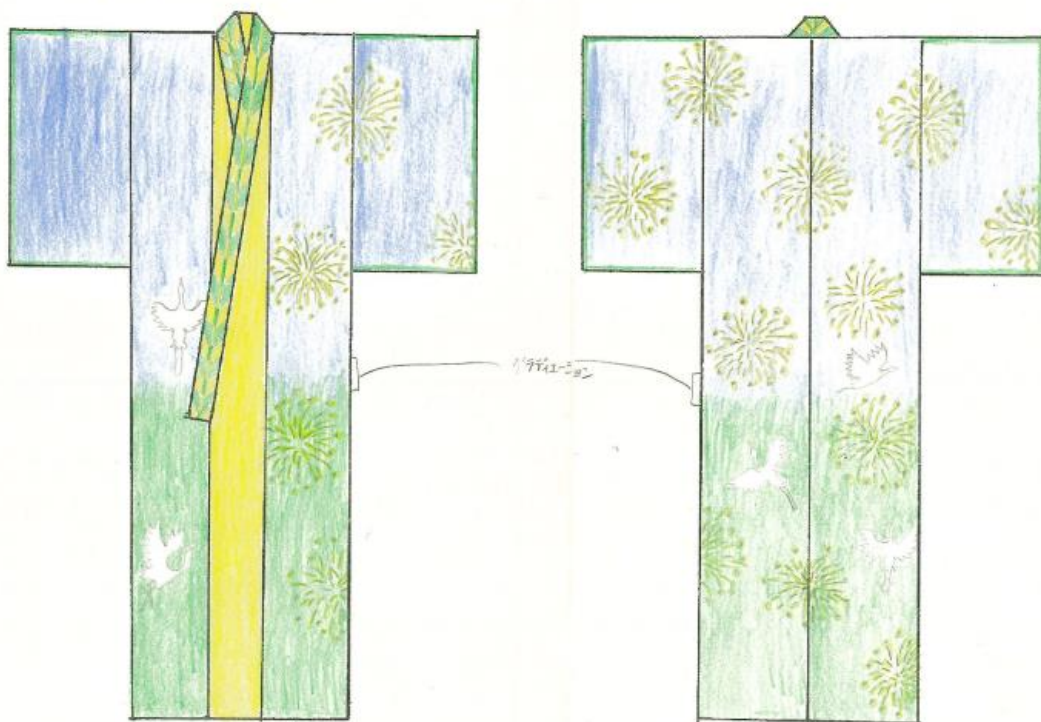
㉔ 題名「藤」

藤の花を中心に描きました。藤の花を描くことや花びらが落ちている様子を描くのが難しかったです。藤の花をどのように表現するのか、ゆれ落ちる花びらをどのように表現すればいいかなどを考えて描きました



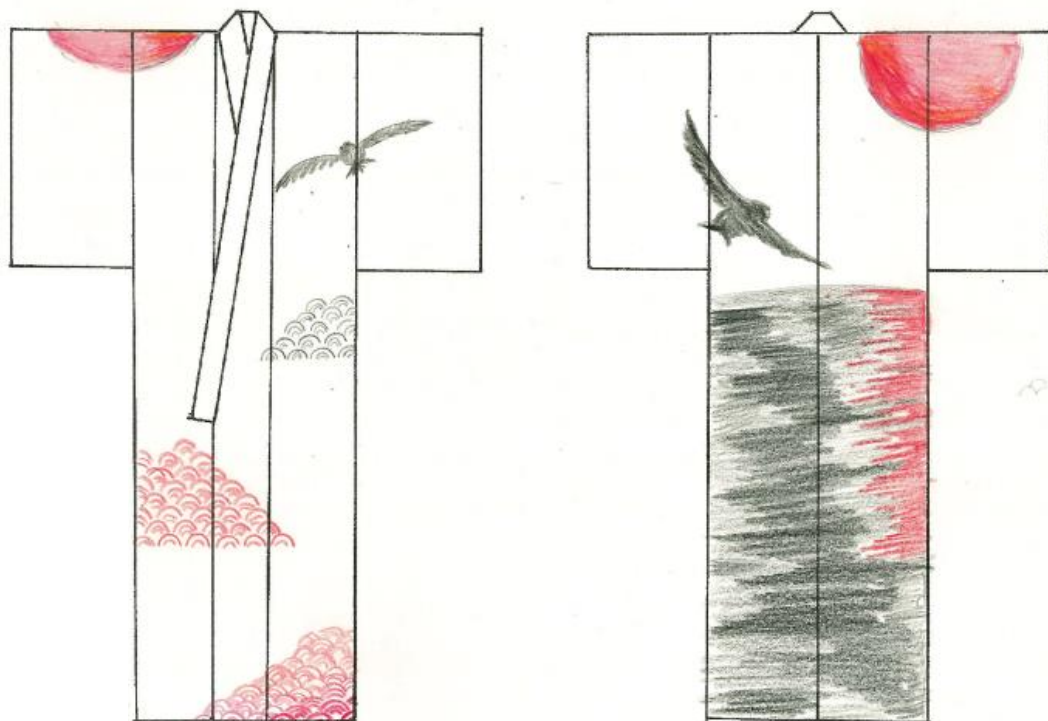
②⑤ 題名「真夏の夜花火」

この着物は夜の花火祭りをあらわしていますが、たくさんの花火があることで、空が明るくなり暗めの真青になっています。その中で、つるも興奮し飛んでいます。工夫したことのまず一つはつると花火のバランスです。ごちゃごちゃになりすぎないように、正面では花火を右側に入れて吊るは左側に入れました。後ろはつるを下の方に入れて、花火は全体的に入れました。もう一つ工夫したところはそでの、緑のふちです。そうすることで、重い感じの青に、軽い感じの緑が入り夏っぽくなります。



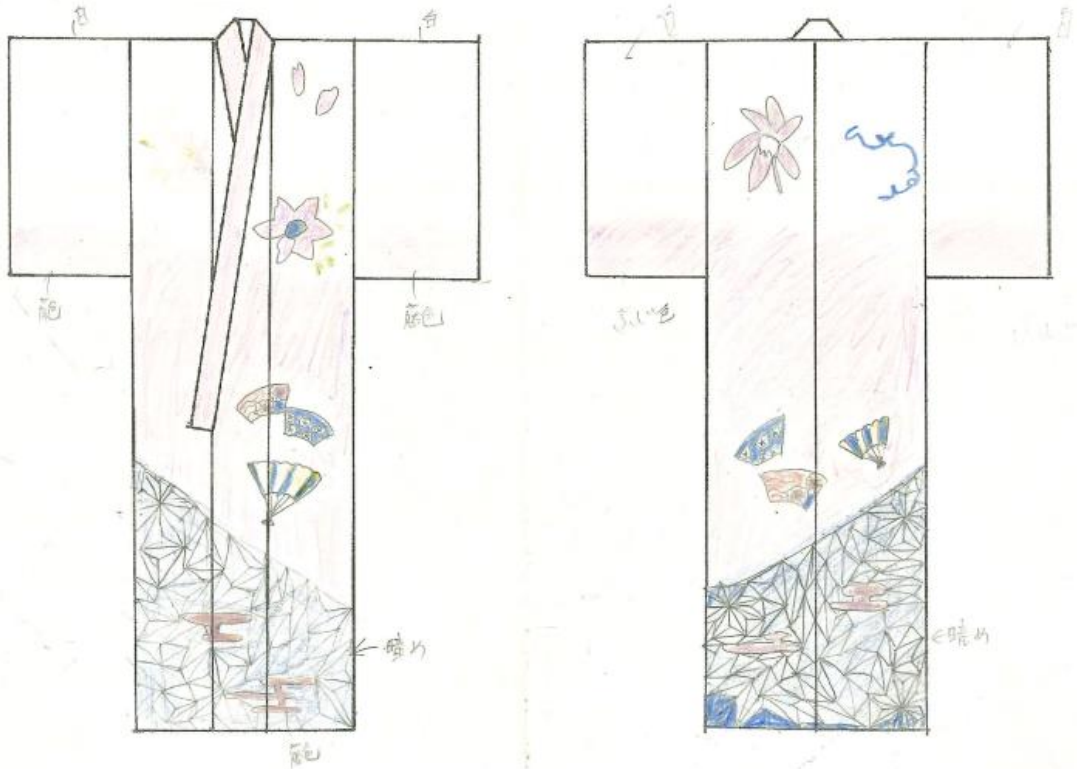
②⑥ 題名「明るいところに」

太陽が昇る反対側の鳥が、明るいものがあると、常に暗いものがあることを赤と黒で表した。派手になりすぎないように、この2色に加えて白を使った。



㉗ 題名「御館さま」

この着物を描く上で、工夫したところは、色をきれいに使い分けることで、鮮やかに見えることを意識して、描きました。下から順にどんどん明るくしていくことによって、美しく見え、また、背中と表の上の部分に花を描いて女の子らしく見えるように工夫しました。扇子は藤色に合うような色を使い、なお、堂々に見えるよう描くことを意識してやりました。



㉘ 題名「愛情にあふれて成長を」

特に頑張ったグラデーションは向日葵色から橙色へと成長して行く様をイメージしました。麻の葉もそうですが、この着物はこれを着る人の体、または心が健やかに成長するという思いを込めています。そこに、花言葉が愛情であるレモンや、魔除けの意味を持つリボンをたくさん描くことでできるだけ苦が少なく、愛情にあふれて育つことをコンセプトとしました。



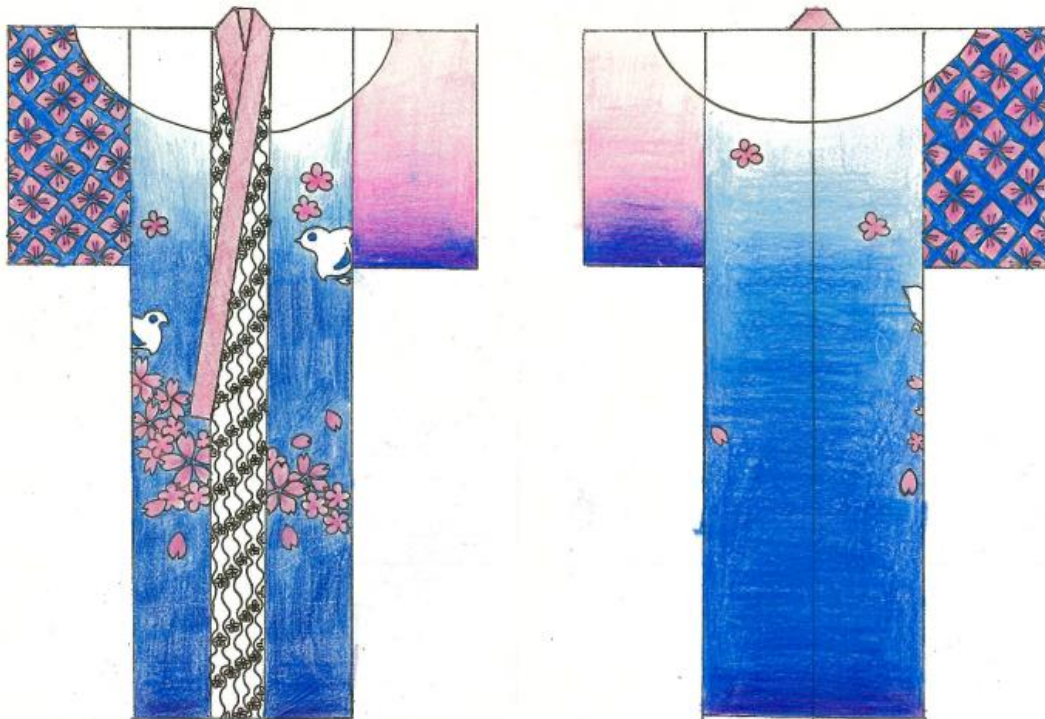
全体に麻の葉

成長
 緑→黄
 レモンの花言葉
 ⇒誠実な愛、情熱
 リボン
 ⇒紐はに魔よけの力
 麻の葉⇒子供の成長
 テマ!!
 着物の流れる動き

05

②⑨ 題名「夜桜」

暗い闇の中、月に照らされる桜をイメージして描きました。また、月に照らされている部分は明るく、下に行くにつれて青味が増していくようにグラデーションを意識しました。そんな中、様々な桜の模様を入れることで華やかさを取り入れています。



③⑩ 題名「つる」

ポイントは色が上から下に向かって濃くなって行くところです。あと裏はつるに神々しさをだすために周りに明るい色をほどこしました。そして鶴が日を浴びて、今にも飛びたちそうなデザインにしました。表は、元気よく片喰が咲くようにしました。

